

共生の時代

みどりの地球を
みどりのままで

連合会総会報告

■発行：グリーンコープ生活協同組合連合会理事会
 ■編集：共生の時代・編集部
 ■〒812-8561
 福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
 博多大博通ビルディング3階
 TEL092(481)7923
 FAX092(481)7876
<https://www.greencoop.or.jp/>



チルド惣菜の 開発を強化しました

フルタイムの共働き、家族それぞれの個性化など、組合員のライフスタイルの変化に合わせて、「すぐに食べられる」チルド惣菜の開発を強化しました。和食の惣菜を中心とした、グリーンコープらしい安心して食べてもらえる19商品をカタログで企画しました。

遅霜の被害を受けた 長野県の産直生産者を 支援しました

2023年4月、長野県で低温による遅霜が発生し、産直の果実類（りんごや桃、梨、プルーンなど）が大きな被害を受けました。カンパチラシを配布して組合員に協力を呼びかけた結果、多くのカンパシが寄せられました。

また、産直りんごには「特別出荷基準」を設け、傷があったりサイズや色などが規格から外れていても、果肉に問題がない果実は正規品と同様に取り扱い扱うことで生産者を支援しました。

多の津センターを 建替え再編します

共同購入商品の仕分けなどを行っている多の津センター（福岡県）の老朽化に伴い、建替え工事に着手しました。施設や設備を整備・充実させ、青果のリパック作業における温度・衛生管理を改善して、供給拡大につなげます。

第三号 議案

2024年度活動方針決定の件

一、グリーンコープの主人公である組合員がグリーンコープ運動を展開し、仲間を増やし、利用を高めます。

二、生命（いのち）を守り育てるグリーンコープの食べものを食べて、私たちの安心・安全な食べものを守り、より良く育てていきます。

三、「グリーンコープ商品の確かさを確認する活動」を重要なグリーンコープの組合員活動とし、メーカー・生産者との交流によって、商品管理の強化と商品の利用拡大をすすめていきます。

四、グリーンコープ商品を見直し、改善と開発をすすめていきます。

五、組合員の伸びに呼応する生産や製造の実態を再構築し、組合員、メーカー・生産者、ワーカーズ（労働協同組合）、職員とともに利用の拡大をすすめていきます。

六、グリーンコープらしいこだわりある特別企画商品（雑貨）を増やしていきます。

七、グリーンコープ連合会と単協の経営を一層強化します。

八、四つの共生の願いに基づき取り組みをすすめます。

九、各委員会の方針は次のとおりです。

（一）商品検討委員会

（1）新規提案の商品について、検討決定します。

（2）新規の農畜水産物の産地や新規のメーカーを視察します。

（3）日常的な商品管理等に関する報告事項について確認します。

（二）商品おすすり委員会

（1）生産者やメーカーとのつながりを深め、単協での利用普及に活かします。

（2）単協で行なわれた産地やメーカーの視察・交流などの取り組みを共有します。

（三）オールグリーンコープで行なう産地やメーカーの視察・交流に取り組みます。

（2）グリーンコープの「産直」や「商品」について知ること、そのよさを実感し、オールグリーンコープで利用普及の取り組みをすすめます。

（3）組合員の声を活かした広報を通して利用普及をすすめます。

（一）単協での利用普及の取り組みを共有します。

（二）学習を通して利用普及につなぎます。

環境への取り組みを加速させ グリーンコープならではの 商品を登場させました

2024年6月20日
グリーンコープ
生活協同組合連合会
第三十二期
通常総会



グリーンコープ連合会
専務理事
西村 大輔さん

第一号 議案

2023年度活動報告承認の件

2024年6月20日、グリーンコープ生活協同組合連合会の第三十二期通常総会が会場とオンラインのハイブリッドで開催されました。厳しいご意見もありましたが、すべての議案について賛成多数で承認・可決されました。

2023年度の活動報告の中から、産直びん牛乳をお届けできなかった経緯と、特に力を入れた取り組みなどについて、また、2024年度の活動方針（要旨）について、報告します。

2023年度、グリーンコープ連合会は、グリーンコープの運動と事業を推進する業務、グリーンコープ連合会の業務の強化と合理化に取り組みました。環境を守る取り組みや商品開発も継続しています。

2023年11月から2024年5月まで、牛乳びんの不足により、産直びん牛乳を毎週お届けできなくなり、大変申し訳ありません。

2023年4月に牛乳メーカーからの連絡で牛乳びんが足りなくなっている事態を知り、新たなびんメーカーで同じ牛乳びんを手配しようとしたが、打ち合わせが不十分だったため、びんが不足する事態となりました。このため、11月から産直びん牛乳の新規（追加を含む）予約と自由注文の受付を中止しました。牛乳が欠配になることを避けるため、グリーンコープの牛乳に最も近い生活クラブ生協の牛乳を代替品として、了解いただける組合員にお届け

することにしました。結果として、2023年度は、利用金額（前年比97.3%）・利用本数（前年比91.6%）ともに前年を下回る実績となりました。

「商品の確かさを確認する活動」が、製造現場の改善につながりました

「商品の確かさを確認する活動」で組合員が工場を視察した際、原料保管庫の中でグリーンコープ商品と他社製品の原料が混在していたのを見て、メーカーに保管・管理を明確にするよう要望したことがありました。メーカーは直ちに原料の混在防止に徹底して取り組み、その後グリーンコープが組合員の要望通り改善されたことを確認しました。

組合員の要望から製造現場の改善につながっていることをカタログGREEN等で案内し、この活動によって再確認した商品の良さを組合員に分かりやすく伝え、利用拡大していきます。

カタログセットセンターが稼働しました

3年余りの検討・準備

平飼いの産直たまごを 登場させました

2022年から準備を進めてきた平飼いの産直たまごが登場させました。生産農場では、新たに平飼いの鶏舎を建設しました。鶏舎の建設、母鶏の導入に合わせて段階的に予約を受け付けましたが、カタログで案内するとその度に生産量を超える申し込みがありました。

環境配慮型包材への 切り替えを進めました

49アイテムの包材を環境配慮型へ切り替えました。環境配慮型包材の利用により切り替え時から削減できたプラスチックは約9トンに上ります。

産直びん牛乳の生乳について

JA菊池の酪農生産者との取引終了に伴い、生産者の皆さんに

これまで生乳を供給していただいたことへの感謝のお手紙をお届けしました。

グリーンコープが新たな産直びん牛乳の事業を展開することに伴い、現在産直びん牛乳の生乳を供給している菊池の酪農生産者との取引を終了することになりました。

取引を終了することに至った経過について報告します。

グリーンコープが新たな産直びん牛乳事業に取り組みきっかけとなったのは、2020年12月末、グリーンコープの産直びん牛乳の製造メーカーである雪印メグミルク(株)(福岡工場)以下、雪印)から、「産直びん牛乳の製造を終了したい」との申し出を受けたことです。グリーンコープは雪印に、産直びん牛乳の製造を継続していただくことを何度もお願いしましたが、雪印には了解いただけませんでした。伴って、産直びん牛乳の製造を委託できる他の牛乳メーカーを探しましたが、産直びん牛乳を製造する牛乳メーカーと出会うことはできませんでした。グリーンコープは何としても産直びん牛乳の供給を継続したいことから、グリーンコープが自前で製造工

場を建設することにしました。

菊池の酪農生産者の皆さんには、グリーンコープの新たな産直びん牛乳事業について、2023年6月28日(水)に第一回の説明会をグリーンコープ連合会職員事務局が行いました。既に中津市に工場を建設する土地を購入し、工場の設計を進めていることを報告しました。また、雪印が「グリーンコープの産直びん牛乳の製造を終了することとは、雪印が許可するまで秘密にして欲しい」との「秘密保持契約」を望んだため、経過をお伝えすることができなかったことを説明しました。

金(再生産可能な価格)を直接支払う取引関係を望んでいました。しかし、菊池の酪農生産者の皆さんは指定生乳生産者団体をとおした一元集荷多元販売の取引を望まれ、現在に至っています。グリーンコープは、産直びん牛乳の製造工場建設を検討する中で、産直びん牛乳の生乳をどのように確保するのかについても検討しました。そして、この機会にぜひ、産直びん牛乳の生乳は菊池の生産者の皆さんと直接に取引して、再生産可能な価格を話し合っ

て、購入代金(再生産可能な価格)を直接に支払う取引をしたいことをお伝えしました。また、下郷農協の酪農家の皆さん(5軒)とも相談し、直接の取引、産直の取引とするように進めていることを報告しました。加えて、グリーンコープの新たな牛乳工場は、2025年4月に製造を開始する予定であること、そして、2025年4月から約1年かけて徐々に、雪印の工場からグリーンコープの新たな牛乳工場

での製造に切り替えていくこと、その間、二つの工場で産直びん牛乳を製造することをお伝えしました。

以上の説明に対して、菊池の酪農生産者の皆さんからは生乳の供給について、一度は2023年12月までしか供給しないというお返事をいただきました。しかし、その後もグリーンコープは生産者の皆さんとの話し合いを継続し、2023年11月10日に、2024年12月までグリーンコープの生乳の生産を継続すると再考していただきました。

2024年12月以降の供給の継続についても、2024年2月14日と4月9日にグリーンコープの組合員が生産者の皆さんと真摯に話し合いを重ねましたが、受け入れていただけませんでした。大変残念ではありますが、菊池の酪農生産者の皆さんの決意と今後の酪農事業継続に向けた思いを受け止め、今回お礼のお手紙をお届けする運びとなりました。

以上ご報告いたします。

2024年 6月17日

酪農生産者の皆様

グリーンコープ生活協同組合連合会
会長 日高 容子

拝啓

いつもグリーンコープ産直びん牛乳の生乳を生産いただきありがとうございます。また、生乳の生産について、2024年12月末まで供給いただくことをお約束いただいたこと、本当に、ありがとうございます。

2024年2月14日(水)、4月9日(火)にグリーンコープの組合員と酪農生産者の皆さんで、半年にわたり協議しながら、今後どのようにできるかを検討してきました。

2月14日(水)協議会では皆様から「交流会やファームステイも長年続けてきて、グリーンコープの酪農生産者を続けていきたくかった。しかし、耶馬溪ファーム建設について何も知らされていなかったことや、耶馬溪ファームを建設されているのにこのままグリーンコープの生産者を続けるのは難しい」とのご意見をいただきました。

また、non-GMOの飼料から一般飼料に切り替える際、飼料安定基金の契約のため、牛に何の飼料を使用するのか報告する必要があることや夏に飼料の切り替えは牛の生命にかかわること、さらにグリーンコープ産直びん牛乳の生乳をお届けするための苦労や想いを届けていただきました。また、下郷の地での酪農場、牛乳工場、TMRセンターの進捗状況を共有してほしいとのことでしたのでグリーンコープよりご報告いたしました。

グリーンコープの組合員からはグリーンコープの牛乳を生産いただく酪農生産者との直接取引について、想いをお伝えしました。産直青果の取引のように直接、顔の見える関係で、生乳の価格も直接相談できる関係にできないか。グリーンコープにとって長年にわたる九州生乳販連様、熊本県酪連様との理不尽な関係性をお伝えして、皆様に相談に乗っていただくことはできないか、協力いただくことはできないか、と相談いたしました。

しかし、酪農生産者の皆様と九州生乳販連様との長年の取引の信頼関係から、「離れることはできない。余乳の取り回しはグリーンコープにしてほしいというのも難しいと思う」とのことでした。それでも、組合員はこれまでの経過について、精一杯のお詫びとこれまでの産直びん牛乳への想いと酪農生産者の皆様への想いをお伝えし、2025年12月までの延長をお願いしました。

最後に皆様から、もしこのまま取引を続けるとしたら、熊本から下郷に生乳を輸送するリスクやアウトサイダーでの取引になることで、余乳が大きな問題になることもうかがいました。そのようなリスクを背負って酪農を続けることはできないこと、継続するにしても、生産組合としての取引ではなく、個人ごとの取引になると応答いただきました。

4月9日(火)の協議会では、皆様から3月21日(木)に全体会を開催したことの報告をいただきました。併せて「牛乳工場だけであれば生乳生産の継続も考えられたが、耶馬溪ファームも建設されて1,000頭規模の牧場をつくっていかうとしているので、現在のびん牛乳工場働く人のために配慮してきたということではあるが、酪農生産者への配慮は考えられなかったのか」とご意見をいただきました。また、酪農家に配布された文書に「このままでは訴訟を起こします」と通知されたことに、「これまでの関係性や信頼関係が崩れてしまい、このまま継続するのは難しい」とご意見いただきました。

グリーンコープの組合員から、「訴訟というのはそのようなことをしたいと思ってお届けしたのではなく、自分たちがこれからも毎日飲み続けたいびん牛乳の生乳を作り続けてもらうために、訴訟の可能性もあることも伝えず協議するのは失礼に当たると思ってお届けした」ことを説明しました。しかし皆様からは、「生産者全員にとって、とてもきつい言葉であった、このことで関係性が希薄になり、信頼関係がなくなり、みんなでやろうと言っていたことは・・・という思いになった」とご意見いただきました。

組合員から「本音はグリーンコープの生乳を作り続けてほしい。できればもうしばらく延長してほしい。作れなくなっても最終的に菊池の生産者と関係できたことが残念な形で終わるのではなく付き合えてよかったと思えて終えたい。今回のお断りのお返事はメールやお手紙でもよかったのに、直接、話してもらえる場を作っていただいたことを本当に感謝しています。」とお伝えしました。

受けて皆様からは「12月までは搾りますのでおいしく飲んでほしい」と話してもらいました。

2回の協議の場で、酪農生産者の皆様と組合員がお互いの想いを伝え、産直びん牛乳の生乳への想いをお互いに交換できたことは本当に良かったと思います。また、これまで、様々なご苦労や努力によって、生乳を生産、供給いただいたことに改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

この間の協議を踏まえ、グリーンコープも新たな産直関係を構築すべく、グリーンコープの牛乳工場、耶馬溪ファーム、TMRセンターを立ち上げ、グリーンコープの新たな産直びん牛乳を生産、供給できるように、頑張っていくことをお伝えしました。様々な困難が生じていますが、皆さんと取り組んできたことを糧に頑張っていきたいと考えています。

最後に、重ねてではありますが、皆様のお考えと判断を私たち組合員に率直にお伝えいただいたこと、心より感謝いたします。どうぞ、2024年12月まで、おいしい生乳を私たちに届けたいと思いますよう、よろしく願いいたします。

敬具